

琉球大学学術リポジトリ

琉球大学21世紀OCEプログラムにおける深海生物プロジェクト

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学21世紀COEプログラム 公開日: 2009-04-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 竹村, 明洋, 山崎, 秀雄, 山本, 啓之, 三輪, 哲也 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/9849

PS-23 琉球大学 21 世紀 COE プログラムにおける深海生物プロジェクト
(Deep-sea projects in 21st century COE program)

竹村明洋¹ (Akihiro Takemura) ・ 山崎秀雄² (Hideo Yamasaki) ・
山本啓之³ (Hiroyuki Yamamoto) ・ 三輪哲也⁴ (Tetsuya Miwa)

琉球大学・¹熱帯生物圏研究センター、²理学部海洋自然科学科
海洋研究開発機構・³極限環境生物圏研究センター、⁴海洋工学センター

琉球大学では 21 世紀 COE プログラム (革新的分野) 「サンゴ礁島嶼系の生物多様性の総合解析-アジア太平洋域における研究教育拠点」を平成 16 年度から行ってきた。このプログラムは、琉球列島における生物多様性の進化や維持機構を分子生物学から生態学など多様な学問分野の手法を駆使しながら明らかにし、多分野の研究者が連携を保ちながら研究教育を推進して若手研究者育成のためのアジア太平洋地域における国際的研教育拠点を築くことを目的として行われてきた。琉球大学 21 世紀 COE プログラムの重点領域研究に位置づけられた深海生物プロジェクトでは、平成 17 年度から 20 年度にかけて鳩間海丘および黒島海丘に生息する多様な深海生物の深海適応機構について研究を行ってきた。深海調査研究 (NT05-05、NT06-14、NT07-12、および NT08-15) は、「海洋動物における浅海から深海への環境適応過程での生理的機能の進化」(平成 17~19 年度、課題提案者:竹村明洋)、「硬骨魚類における暗黒深海環境への生理的適応」(平成 20 年度、課題提案者:竹村明洋)、および「海底熱水噴出孔生物の硫化水素環境適応機構の解明」(平成 20 年度、課題提案者:山崎秀雄)で、いずれの調査研究でも深海生物の生理機能を船上で分析して微弱光環境適応及び硫化水素環境適応などを明らかにすることであった。この報告では本年度まで進めてきた 21 世紀 COE プログラムでの深海生物プロジェクトの研究成果をまとめ、琉球大学が今後行うべき深海生物研究の方向性を示す。